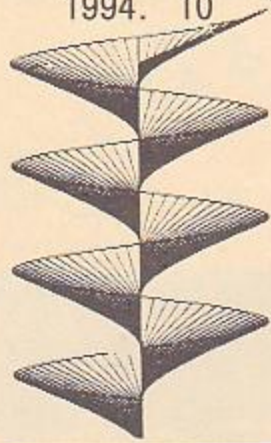


1994. 10



はるかにくす

No. 35

大阪工業大学図書館報

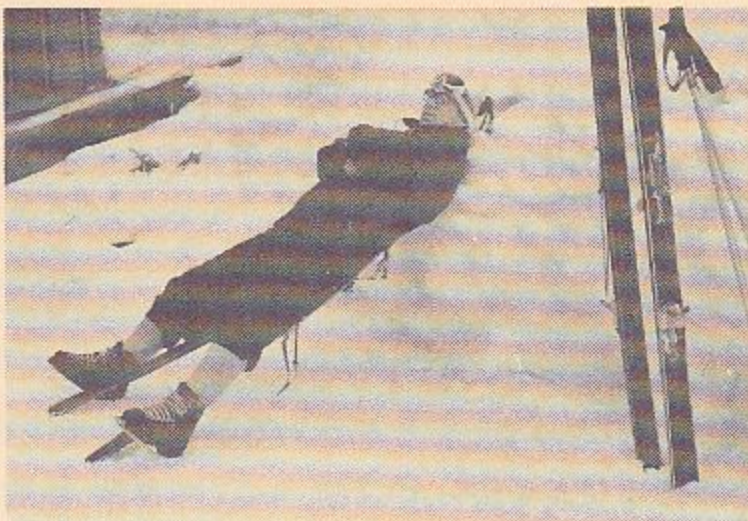
人生の喜びとは・・・

学長 櫻井良文



“釣り糸に水泡（みなわ）とまりし暑さかな”
この句で暑さが強調されるのは泡が糸に止まって動かない状態である。もちろん釣り人がじっとしているのは当然で、早天で太陽が照りつけている状況は容易に想像される。人間は元来自由に動くことが望ましいので、束縛されて一定状態にあることは苦痛を意味する。（牢を想像してみれば…）

人生で喜びとは何だろうか。人によって、或いは周囲の状況によって違うであろうけれども、われわれ大学にいる者にとっては一つの仕事を成し遂げた時の満足感があげられる。私が初めて国際会議に招かれて講演をしたのは1963年のワシントン・インターマグの時である。発表は最終日に当たっていたので緊張も高まっていたが、質問に対する返答も無事終わって会場を出た時、庭に咲いていた花も真っ青な空も今までに経験したことのない深い美しさに輝いて見えた。その夜プロ野球のナイターを見に行った時も照明に輝いたグリーンや赤い車が入ってくる交代のピッチャーが何ときれいに見えたことか。



1972年白馬にて

さらに辿れば若い日に学会で講演を終えた時いつも感じる清々しさ、目に入る桜の花の美しさ、それらは自分の内部状態の解放感・満足感と大きく関わっている。

上の2つの例から分かるようにストレスから解放され自由を感じた時われわれは喜びを感じる。これらは比較的短い時間における感じであるが、もっと長いレンジのものとしては幸福感がある。

私が幸福に対する考え方として時々使うのは、金とか知識とか地位とかが時間に対して増加する（すなわち、時間微分が正である）という状態である。逆にこれらが下降する時不満が起こる。この中でも特に大切なのは知識である。正に学生時代はこれが増加を続ける人生における最も大切な時期である。学生諸君はあまり自覚していないかも知れないが今知識を貯めておくことは極めて大切で、社会に出た時その知識を自分の中で噛みしめ、処理をして社会に役立てるようになる。その時自分で努力して得たものか或いは漠然と画面上から入っただけのものかで知識の値打ちが違って来る。読書の大切さは知識吸収の過程で比較したり考えたりする情報処理があるからで、受動的な知識は浅いものでしかない。読書が専門的な勉強であろうと小説であろうと変わらない。私の最も記憶に残っているのは旧制高校時代に読んだ「ジャン・クリストフ」（ロマン・ローラン）で、これで人生の目標を見つけたことは未だに記憶に残っている。

（自動制御専攻 工学博士）

私が本に恋するまで

大学院工学研究科 経営工学専攻 山本祐子

まだずっと小さい頃、土の上で初めて見つけたそれを両手いっぱい集めた私は嬉しそうに母のところへ持っていった。「かわいいでしょ」、私の両手は丸虫がいっぱい。母は喉の奥までできていた悲鳴を呑み込んで「お家に帰してあげないとかわいそうでしょ」。私は渋々丸虫たちを土の上へ。これは後になって母から聞いた話である。母は「あなたが理科を嫌いになってはいけないと思って叫ぶのを押さえるのに必死だったのよ」と言った。いろいろな育児書を読んだ上でそういう行動をとったらしい。母親になるということも楽ではない。今の私は大の虫

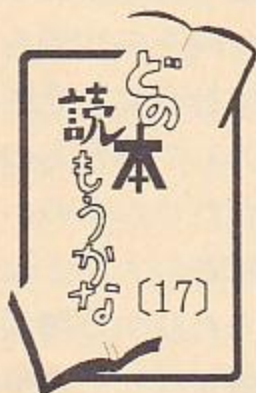


嫌いだが、理科は、とくに生物は大好きだった。私がこんなイイ女に育ったのもひとえに母が本を好きだったおかげである。

絵のない分厚い本に興味を示さなかつ

た私は、高校時代、ギター研究部唯一のサックス奏者から落語研究部廃部の危機を救わんと二年で転部。サックスを持っていた手は三味線を、楽譜は落語の本へ、スカートから着物へ。高校三年生の学祭の頃、楽屋では着物の裾をたくし上げ立派な大根を二本さらして走り回っていた。舞台上でいきなりチョキの私の努力もむなしく、卒業と同時に廃部となった。しかしこの経験から、ふと気づくといつしか私の手元にもハードカバーの縦にずらっと活字が並んでいる本があった。それは気づかぬうちに、私に物を考える力と知識を与え、夢を与え、時として舞台上でピースする以上に明るい生き方を示してくれた。大学院へ進学して先輩から紹介された本は、漢字も内容も難しくてなかなか読めるものではなかったが、つまずきながら足跡をつけたその本は、今では私の宝物である。

あるたった一言の言葉に出会い、一瞬にして視野がひろがる、時間が経って“あのときの言葉は！”と、ようやく理解ができる。そういった嬉しい経験はいつかどこかにあるものだ。幼かった私が初めて土の上で丸虫を見つけたように。いつしか私も“ぴちぴちの女子大生”という年になって虫嫌いにはなったが、図書館の本を両手いっぱい持って帰りたい気分である。



マルチメディア

西垣通著

(岩波書店)

西暦2000年の市場規模が60兆円との試算もあるマルチメディア。しかしマルチメディアの実像は明確ではない。著者は『マルチメディアとは「デジタルな融合のテクノロジー」に他ならない』と定義づけ、その特徴を、理性より感性に直接訴えかける点としている。

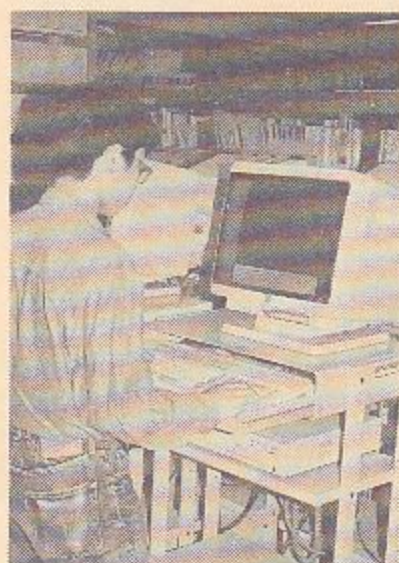
現在のパソコン文化の理解のため、パソコンのルーツにさかのぼり、ハード、ソフトといったコンピュータそのものの環境論を超えて、日米比較文化論にも言及している。単なるマルチメディアの紹介書と思って読み進めると、ちょっと戸惑ってしまうかもしれない。

マルチメディア文化では、パソコンの操作技術よりも想像力の豊かさが求められる。過大な期待を警告し、マルチメディアのありのままを冷静に等身大で語っている。(図書館 松浦)

(請求記号 007.3 N 第1図書室)

知って得する

所蔵検索用端末機の使い方



移動性高気圧の影響で大宮キャンパス上空に『読書の秋』前線が発達しました。利用者の皆さんは、急いで図書館に直行しましょう。早くしないと、お気に入りの本がなくなるかもしれません。お帰りの際は、本をお忘れなく…。

ところで諸君、お目当ての本はもう見つかりましたか？“図書館の本は多すぎて探すのがめんどくさい”な～んていうモノグサさんに重宝するのがコレ。そうです、皆さんご存じ『所蔵検索用端末機』。ちょっと長ったらしい名前だが、これがなかなかのすぐれもので、所蔵の有無、配架場所、請求記号等の所在情報はもちろん貸出者、予約者の有無などの情報が瞬時に分かるっていうから、忙しい君にウツツケ。そこで、今まで一度も使ったことのない君に、こっそり使い方のコツを教えよう。

それでは、まず、端末に、君の利用者番号を入力しよう。利用者番号は、学生番号（職員番号）の前に所属番号をつけた7桁だ。

所属番号：工大生 = 1	院生 = 81
短大生 = 3	職員 = 90

例) 工大生の場合：194001 → 1194001

入力出来たら、後はナビゲーターとなる画面下のメニュー通りに進めば、検索方法・条件設定・検索結果・該当図書一覧・図書データの5つの画面もすべてクリアできるのでご安心を…。図書データまでたどり着いたら該当図書の『請求記号』を頼りにお目当ての図書を見つけ、メダタシ、メダタシとなるはず。もし、検索したい図書名がハッキリ分からないときでも、問題外だとあきらめないで。初めの分かっている部分の末尾にプラス【+】をつけるだけで、入力した部分と同じ図書すべてを呼び出すことができる。

例えば「おもしろい図書を探すには何を…」の場合→「オモシロイ+」と入力すればいい。すると、「おもしろい」ではじまる図書すべてを画面に表示してくれる。これが得意の前方一致検索というハナレワザ。君はその中から探している図書を見つければいいってワケ。

ただし、条件設定があまいと検索した図書の冊数が多すぎてかえって時間がかかってしまう。そんなときは条件を改め、もう一度トライ。幸運を祈る！

ただ一つ気がかりなのは、この端末、『アルファベット』、『カタカナ』、『数字』しか受けつけない、わがままなところもあったりする。『ひらがな』、『漢字』はタブーなのだ。もし、間違ったキーを押すと画面左下に『やり直して下さい』などとメッセージが表示され、端末は怒って止まってしまう。そんなときは、【取消】キーでご機嫌をうかがおう。ローマ字入力で攻めたい君は、先に【カタカナ】キーを押し、その後【前面】キーを押しながら【ひらがな】キーを押すと画面左下にRの文字が表示される。これでローマ字入力はOK。カタカナ入力に戻す場合も同様のキー操作で完了（Rの文字がなくなればOK）。検索が終わったら、次の利用者のために【終了】キーを押して画面を初期メニューに戻すのがエチケット。端末は、デリケートなんです。やさしくあつかってネ！

どうです、少しはこの端末とお付き合いする気になったでしょう。この秋、端末と仲良くなってすてきな本との出会い楽しみませんか？

ひょっとしたら思わぬ『昔懐かしい本』に巡り会えるかも…。

最後に図書館からのお願い
いくら端末を使いこなしても、決められた棚に図書がなければなにもなりません。図書は決められた場所に返却しましょう。
これジョウシキ 守ってね！

